



今月の題字  
ながさわ かずや 君  
(山田南小1年)

# 町のわだい

## 「干し<sup>めん</sup>麺」を商品化 食感やのどごしが最高

町海洋深層水利用調査等検討委員会(菊地和三会長)では、三陸沖で採取した海洋深層水で仕込んだうどん「干し麺」を開発しました。本町の釜揚げ屋(川村芳宏代表)が中心となって商品化したもので、小麦は県産、麺の練り水には海洋深層水を25%使用。食感やのどごしが良く添加物を一切加えていないことから体に優しい食品といえます。干し麺は300円、350円。「道の駅やまだ」などで取り扱っています。本町の新たな名物を贈答用などとしてご利用ください。



## キッチンからの国際交流 本場の水餃子<sup>すいぎょうざ</sup>づくりに挑戦

5月15日、山田町国際交流協会(清水誠勝会長・会員38人)主催の「キッチンからの国際交流」が開かれ、町民25人が参加しました。異国の食文化を通じて外国人との交流を深めようとしているもので、この日は中国の余蕾<sup>シュア・レイ</sup>さん(宮古市・34歳)を講師に招き、三鮮水餃子<sup>さんぜん</sup>作りに挑戦しました。生地の下準備と具の味付けまでは順調に進んでいましたが、具を皮に包む段階で悪戦苦闘する参加者。講師から何度も生地ののばし方や具の包み方を教わるなど、本場の中国料理を通じて交流を深めていました。



## 町の振興にお役立てください 元助役・故箱石<sup>フキイシ</sup> 二郎<sup>ニロウ</sup>さんの長男 10万円を寄付

先月亡くなった元町助役の箱石二郎さんの長男英年<sup>ヒデアキ</sup>さん(大沢・55歳)が町に10万円を寄付しました。5月21日、故・箱石さんのご家族を代表して英年さんが役場を訪問。「町の発展のために役立ててください。故人は山田町に大変お世話になったので、山田のために使ってもらえれば喜んでくれると思います」と沼崎喜一町長に寄付金を手渡しました。これに対し沼崎町長は「町の福祉向上のために有効に使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。



## 陸中山田ライオンズクラブ 防犯用さすまたを贈る 万が一のときに役立てて

陸中山田ライオンズクラブ(小原義明会長・会員24人)では、豊間根小学校(濱田宏一校長・児童141人)に防犯用さすまた2本を寄贈しました。全国的に学校に侵入する不審者が増えていることから、いざというときに役立ててもらおうと贈ったものです。贈呈式は5月19日に同校で行われ、小原会長ら3人が訪問。小原会長が「これを使わなくて済むことを願いますが、万が一のときには役立ててください」と濱田校長に手渡しました。同クラブでは町内のすべての小、中学校にさすまたを2本ずつ贈っています。



## 第4回植樹祭に300人 ずっと残そう豊かな緑

山田の海を守る会(会長・沼崎喜一町長)が主催する「山に広葉樹を植える運動」第4回植樹祭が5月16日、織笠新田地区の町有地で開かれました。海との結び付きの強い森の必要性和大切さを再認識してもらおうと行われているもので、町内の森林愛護団体や海づくり少年団、漁協関係者など300人が参加。スコップを片手に豊かな緑をはぐくむ森づくりに取り組みました。この日植えられた苗木は、コナラ700本とブナ100本の計800本。参加した皆さんは小さな緑の成長を願いながら一本一本丁寧に植え込んでいました。



## 関口川でサケ稚魚放流会 大きくなって帰ってきてね

大きくなってこの川に帰ってきてね——。4月30日、関口川で「サケ稚魚放流会」が行われ、山田北小学校(福士久雄校長・児童146人)の2年生28人が参加しました。同放流会は子供たちにサケ資源の大切さや川をきれいにする心を養ってもらおうと毎年行っているもので、この日放流したのは山田湾漁協が提供した体長約6センチの稚魚1万匹。子供たちは、優しく声を掛けながら次々に放流し、元気に海へと泳ぎだす稚魚の姿を静かに見守っていました。